

「税務システム等標準化検討会（第16回）」

議事概要

日 時：令和8年6月2日（火） 15:00～15:45

場 所：オンライン開催

出席者（敬称略）：

【構成員】

庄司 昌彦	武蔵大学社会学部 教授
羽生真一郎	東京都 主税局総務部 システム管理課長
中村 郁夫	浜松市 財務部 税務総務課課長補佐（影山 元紀 財政部次長兼税務総務課長の代理）
竹内 信介	神戸市 行財政局 税務部 税務課長
中嶋 健裕	前橋市 未来創造部 情報政策課長
大竹 芳弘	三条市 総務部 DX 推進課長
吉川 徹	飯田市 総務部 税務課長
兵藤 広之	豊橋市 財務部 市民税課長
徳平拓一郎	南国市 情報政策課長
本山 政志	埼玉県町村会 情報システム共同化推進室長
前口 匠郎	全国知事会 調査第一部参事（村井 隆一 調査第一部長の代理）
久家奈那子	全国市長会 財政部主事（原 大介 財政部長の代理）
前田 夏樹	全国町村会 財政部副参事（深澤 正志 財政部長の代理）
山口 最文	地方税共同機構 理事兼事務局長
吉本 明平	一般財団法人 全国地域情報化推進協会 企画部担当部長
三木 浩平	総務省 デジタル統括アドバイザー
池端 桃子	デジタル庁 地方業務標準化エキスパート
市川 康雄	総務省 自治税務局 企画課電子化推進室長

【欠席者】

菊地 真	三鷹市 市民部 市民税課長
小林 重義	富士市 デジタル推進室 情報システム課長
市川 靖之	総務省 自治税務局 企画課長
水野 敦志	総務省 自治税務局 都道府県税課長
福富 茂	総務省 自治税務局 市町村税課長
奥田 隆則	総務省 自治税務局 固定資産税課長
滝 陽介	総務省 自治税務局 都道府県税課自動車税制企画室長

【準構成員】

日名子大輔	株式会社 RKKCS 第1システム本部副本部長兼税務システム部門部長
佐藤 直樹	北日本コンピューターサービス株式会社 滞納ソリューション開発部 第1課長

早田 浩史 Gcom ホールディングス株式会社 第2 製品開発部長
森田 俊策 株式会社シンク ソリューション開発部長
亀井 勢 株式会社 TKC ユーザ・インターフェイス設計部税務情報システムグループ課長
岩松 秀樹 株式会社電算 開発本部ソリューション2 部主幹
轟原 幸代 日本電気株式会社 住民情報システム開発統括部 シニアプロフェッショナル
松本 晋 株式会社日立システムズ 公共情報サービス第一事業部
第一開発本部 第二開発部担当部長
山縣 大輔 富士通 Japan 株式会社 Public & Education 事業本部
住民情報サービス事業部シニアディレクター

その他オブザーバー等

【議事次第】

1. 税務システム標準仕様書【第 6.0 版】(案) について

【意見交換(概要)】

1. 税務システム標準仕様書【第 6.0 版】(案) について

○ 今回の標準仕様書改正案のうち、法人住民税の帳票「予定申告書(汎用紙)」に関して、省令様式と標準仕様書様式が部分的に違うという指摘が地方団体からあった。当初の事務局対応案としては「省令様式に準拠し項目を印字しても差し支えない」という文言が入っていたため、どちらも選べるような状況だと標準化が目指している全国共通様式であることが崩れてしまうため、整合性を取るべきだと申し上げた。これについてどのように対応したか。(総務省デジタル統括アドバイザー)

→標準仕様書様式を省令様式上の文言に合わせている。前提として、標準仕様書上の帳票については省令様式のレイアウトを参考に印字する想定であり、諸元表に定義している項目についても原則として省令様式に準拠することを想定している。今回の諸元表の修正については、あくまで省令様式上の文言に合わせて、表現修正の範囲に留まるものだと認識している。新たに印字要件を追加するものではないため、システム開発等への影響も限定的であると認識している。(総務省)

○ 従来の帳票で一体であった納付書と納税通知書について、標準化に伴い、それぞれ別の帳票で印刷を行う必要が生じるなど、従来の事務フローから変わる場合がある。封入時に名寄せするための QR コード等の印字について、ベンダが行うか、印刷会社が行うかのすり合わせが進まないという問題が当市だけでなく他団体でも生じていると聞く。大量帳票において、機械的に運用出来ず手作業となると費用が膨らむことになりかねない。名寄せする仕組みについて、何らかの整理したものはあるか。また、他団体から同様の意見、要望はあるか。(三条市)

→他団体からそのような意見、要望について現時点では確認されていないが、標準準拠システム移行後に各地方団体で運用上の課題が生じる場合がある。そのような意見、要望については、アンテナを高く張り、必要な部分は修正していきたいと考えている。(総務省)

→このように実装して初めて気づくことや、実装して新たなアイデアが出てくることがある。そのような観点で、アンテナを高く張っていただきたい。(座長)

以上